

# 避難所環境の状況、今後、災害が起きた場合に備えるための教訓、提言 ～発達障害の場合～

JDDNET

藤堂栄子

# 災害が起きた場合の教訓

- 逃げたがらない
  - 十分な訓練があった場合は自分たちで数時間かけて帰宅したケースもあり
- 都心部では帰宅困難になった
  - 地域コミュニティだけではなく、違う場所にいる場合のことも考慮する

# 災害が起きた場合に備える

- わかりやすいマニュアル
- 避難経路などを日頃から体験的に確認
- 連絡方法の確認
- サポートマニュアルの徹底
- ひとりひとりに合った身の護り方
- 地域間格差が起きないように工夫
- 行政間(国、都道府県、市区町村)の連携

# 避難所環境の状況

## 本人の困難さ

- 新しい環境に慣れない
- 情報が伝わらない、伝えられない
- 不安、トラウマ

## 結果として

- 落ち着きがなくなる
- 奇異な行動をとる
- 食事などに見つけられないなど

# 避難所環境の状況

## 保護者の困難さ

- 周りへの気兼ね
- 各種配給などに並べない
- 危険と知っていても自宅に戻る他ない

## 周りの困難さ

- うるさい(不安で泣くなど)
- 迷惑(場所にこだわったりするなど)
  - ピアノなど特技で周りを和ませた例も

# 避難所環境の状況への提言

- 日頃から慣れている場所への避難
  - 特に特別支援学校
- 医療福祉のみならず心理士、作業療法士、言語療法士、特別支援教育士などの専門家の巡回（JDDNETでは2011年度一年間ゆうゆうに週ごとで専門職を派遣した）
- 情報の提供方法の工夫、合理的な配慮、避難場所間で格差のないよう